

令和4年度 園評価書

園番号 41 園名 川原こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
自分が好き みんなが好き こども園が好き	自分の好きな遊 びをとことん やってみる	子どもが大人や友だちに自分の気持ちを 受け止めてもらい安心して過ごして いる	保育者が様々な気持ちを受け止め信頼関係のもと自分の思い を伝えようと(仕草・表情・言葉)する姿が増え、安心して 過ごしている	A	A	・先生との信頼関係が強く「○○先生 がいるからこども園へ行く」と、先生 のことが好き、という姿が見られ安心 できる。また先生たちが子どもだけで はなく、保護者の顔を覚えるのが早 く、信頼感を持つことができる	思いの出し方は個人差があるので、丁寧に開わり ながら気持ちを受け止めていく。保育者は肯定的 な言葉・穏やかな口調を意識して関わっていく
		子どもたちが自分で考え、夢中になっ て遊び、とことん遊べるような環境作 りが行われている	子どもの興味・関心に合ったり、子どものつぶやきを拾い、 やりたい思いに添えるよう物や空間など環境を作っている。 活動時間に制限(園庭の使用時間や給食・午睡など)がある ので時間で区切ってしまうこともある	B	B	・遊びを通して色々と経験したり教え てくれたりしていると思う	子どもが興味を持ったタイミングを逃さず、環境 づくりをしていく。好きな遊びを十分できるよ うな場所(空間)や時間が保障できるための工夫を 考えていく
		子ども達が様々な経験を する中で思ったこと や考えたことを自分 なりの方法で表現 できている	こどもの年齢や発達によって思いや考えを表現する 方法は異なるが、言葉だけではなく表情や仕草、視線など自分 なりの思い表現をしている	A	A		年齢によって表現方法は違うが、保育者が子ども の思いを汲み取り受け止めていくことを繰り返し 丁寧にやっていく。色々な思いや考えが出るよ うに様々な体験の場を作っていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園におけ る教育及び保育	(1)0歳から小学校 就学前までの一貫 した教育及び保育	一人一人の発達や経験などの差を十分 に把握理解し、それに応じた援助や言 葉かけを行っている	個々の発達、家庭環境、経験、性格の違いがあるため、一人ひとり に応じた支援を行うとともに、色々な経験ができるように遊びの環 境を作っている。また職員間で共有する機会を(職員会議、乳・幼 児会議・パンダ会議)設けている	B	A	・早番、遅番保育では人数や時間によ って保育室が変わっていくことは仕 方のないことであるが、子ども達は 「○○の部屋で遊んだ」と保育室が 変わることも楽しみにしている	今後も情報共有とともに、よりよい支援(温かい声掛け、 開わり)をしていけるように職員間で支援の仕方を情報交 換していく。また、発達のおさえを職員間で共通認識し、 次の学年にスムーズにしていけるようにする
	(2)一日の生活の連 続性及びリズムの 多様性への配慮	在園時間の違う子どもに配慮し、安定し た気持ちで園生活が送れるよう生活の流 れを作ったり遊び方を工夫している	早・遅番の玩具は定期的に見直しはしているがマンネリ化し やすい。また家庭と連携し、その日の体調や気持ちを考慮し て開わり安心して過ごせるようにしている	B	A	・この地域には対風水害や土砂崩れな ど災害に対して安全な地域ではある が、小中学校になっても訓練を行っ ていくので、小さいころからの訓練の積 み重ねは大切である	遅番保育では人数や時間によって保育室が変わって いくため遊びが途切れやすいが、保育室を移る時間を遅 らせたり、職員配置を考えたりじっくり安心して遊ぶ ことができるように工夫していく
	(3)環境を通して行 う教育及び保育	子どもたちが思い切り遊び、楽しさが 感じられるような環境作りが行われて いる	クラス環境を変えたり、工夫したりしている一方、園庭の狭 さゆえに乳児・幼児が入れ替わる時間があり、時間で区切ら なければいけない時がある。とつき棚があるものの、有効 活用できていなかった	B	B		とつき棚の活用や明日もやりたい、と思えるよ うな環境構成や再構成をしていく必要がある
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	避難訓練や不審者訓練、交通安全指導、 ヒヤリハット対策を通して子どもや職員 が危険に対して自ら気づき行動できる力 を身につける	毎月の訓練、指導の積み重ねにより、子どもや職員の危機意 識が高まってきたが、まだ叱咤に判断し、対応する力が弱 いと感じる	A	A	・家でも手洗いが習慣となっている。 感染症予防のための手洗いだけではなく、 蛇口をひねる、押す、引くなど手 を使う動きを体験することができ ている。家庭では自動で水が出たり簡単 に触るだけで水が出ることもあるので、 園で蛇口をひねる等の動きができて良 いと思う	今後も引き続き、様々な想定や予告なしの訓練を 定期的に行い、叱咤の判断力、対応する力を高め ていく。全職員が意識していけるよう会議で話し 合いを設ける
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗い教室の開催や、感染症対策にも 必要な手洗いの大切さを知る機会をも ち子ども自身も意識を持てるようにす る	毎日一緒に行う中で、少しずつ自分で手を洗ってみようとし たり、声掛けで泡をしっかり両手につける姿が見られてきた。	B	B		手洗いを自ら進んで行うことができるように、ウ イルスや細菌について、近隣校の養護教諭から話 を聞く手洗い教室を作ったり、手洗いの大切さを 知らせるポスターも活用していく
4 特別支援教育・ 保育	(1)支援体制づくり の推進	加配担当者が会議を行ない、一人ひとり に合った支援を考え園全体で支援して いく	毎月パンダ会議で支援について話し合い、職員会議で共有し た。気になる子について全職員で情報共有し、支援方法を考 え、同じ開わりができるようにした	A	A	・職員の研修はどんなことをしている かはわからないが、子ども達が楽しん で遊んでいる姿を見ると、先生たちが 色々な話し合いをしてとれていると思 う。また職員異動があるので閉塞的、 マンネリ化せず研修が繋がっている と思う	サポートプランを複数人で考え、検討してい く。(パンダ会議)パンダ会議にフリーの先生も参加 する。加配以外の気になる子について情報共 有、ケース検討などを行っている
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員同士が子どもたちの様子を伝え合 い環境設定や開わり方を話し合う時間 を作り幼児乳児の連携をはかる	週1回の環境会議でクラスの遊びを伝え合い、園庭環境を見直 している。乳児・幼児会議も行い、情報共有しているが、子 どもの姿を伝え合う機会を定期的にもよかった	B	B		子どもの姿を伝えられる機会を多く作り、連携を 深めていく。わくわく会議を定期的に行い、様 々な職種の職員からの意見が開ける場を作ってい く。
6 研 修	(1)研修体制の充実	日々の実践やエピソード、保育の振り 返りを通して、研修テーマに沿った研 修を進めていく	公開保育を各学年1回ずつ行い、研修の手だてをもとに視点 を設け、事後研修で協議している。その内容を研修便りに し、参加していない職員にも研修について知らせることが できた。	B	B	・食育便りの質問コーナーで同じよ うな食事の悩みを持っている保護者が いるとわかり安心した。また出汁の飲 み比べをした日に「おいしかったよ」と 教えてくれ、家庭ではなかなか経験さ せてあげられないのでありがたい	研修だよりの簡易版を保護者に出せると良かった。 子どもについて語れる場として月案や週案作 成日(自由参加)を設けていこうと思う
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境 の充実	ユニバーサルデザインを取り入れ、どの 子にも分かりやすく過ごしやすい環境作 りを行う。またSDGsに取り組み保護 者にも発信していく	年に数回、会を開き、パネルを使用して子ども達にわかりや すいように伝えて保育者の意識も高まり、子どもに対しての 声掛けが丁寧にできたり、イラストを貼っていることで子 どもにもわかりやすく伝わり、身についている	B	A		保護者への発信が必要。ユニバーサルデザインを 園内に貼り、日々の生活の中で意識できるように していく
8 家庭との連携・ 協力	(1)家庭教育への支 援機能の充実	親子で食育に関心もてるようなお便 りの工夫や食育活動の様子を写真など で知らせていく	毎月食育の日の実施、食育便りを発行し、食育ボードで写真 を掲示しながら、毎日給食展示を行い、保護者や子どもに発信している。お便り で質問コーナーを設け、保護者の声を聞いたり、返答したりすると共に、 幼児は栽培した野菜を展示、クッキングを楽しんでいる	A	A	・地域には民生委員が二人いるので地 域で知りたいことや困ったことがあ ればなんでも相談してほしい	食育の日だけではなく、日々の給食の様子をボ ードで発信する(各クラス1回ずつ)子どもと交 流を増やす。引き続き、発信に加え、保護者の声 を聞けるようにしていく
9 近隣の学校との 連携	(1)近隣の園との連 携の推進	小学校の園庭利用、交流、手洗い指導、 公開授業、公開保育、散歩などで訪問し 合い、子どもだけでなく職員の交流を深 めていく	コロナ禍の状況を見ながら近隣の小学校の公開授業や公開保育、二 中グループの研修に参加する中で季節に合った内容の遊びを行ったりや 庭利用、桜が丘高校からの贈り物を通しての交流、また浜田小学校への サンタクロス役依頼など、できる範囲での交流を行った	A	A	・保護者の意見が一番大切。保護者ア ンケートで高評価を受けたことは園が しっかり保育していることが伝わっ ているのではない ・小学生もこども園との交流を楽し みにしている。今後でもできる範囲のこ とを行ってほしい	できる範囲での交流をより確実に行うために年間 予定でおおまかな計画を立てていく。直接的な交 流だけでなく、園での様子を知るような掲示物や手 紙などで交流を図っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づ くりの推進	地域の子育て世帯に対する事業を知ら せ、地域の親子が安心して過ごせる空 間と時間を保障する	おしゃべりサロン、一時保育などを通して地域の子育てを応援して いる。おしゃべりサロンでは季節に合った内容の遊びを行ったりや 養士・歯科衛生士を招いて専門的な話や子育ての情報を発信することが できた。また、在園児が歌や踊りを披露し、ふれあいの場を設けた	A	A		おしゃべりサロンの様子を回覧板として地域に 発信していく。また年間計画を近隣の商業施設や 交流館などに配布し、未就園の親子が参加しやす くようにしていく